

## コンペティション「シージャック」 記者会見のご報告

平素よりお世話になっております。本日『シージャック』のゲストによる記者会見が行なわれましたので、下記の通りご報告いたします。

- 日時・場所 10月21日(日) 13:30～ @ムービーカフェ
- 登壇者 ソーレン・マリン(俳優)、トマス・ラドアー(プロデューサー)

本作で海賊と交渉する船舶会社のCEO役を演じるソーレン・マリンさんとプロデューサーのトマス・ラドアーさんにお答えいただきました。

Q: 海賊事件を扱うというのは誰のアイデアでしょうか？企画が生まれた経緯を教えてください。

トマス・ラドアー(プロデューサー): トビアス・リンホルム監督とは『R』という作品で以前仕事したのですが数年前にカンヌ映画祭で再会した際に、デンマークの船が海賊に襲われるというアイデアを聞かされました。素晴らしい企画だと思い、一緒にやろうと即答しました。彼は非常に才能豊かな監督ですし、出資金集めも脚本製作も1年で完了しました。

Q: CEOの役作りにあたり、ソーレンさんがどのような準備をしたのか教えてくださいませんか？

ソーレン・マリン(俳優): 私自身は、ご覧いただいてわかるとおり明らかにCEOには見えませんし、役を演じるにあたり半年近くをリサーチに費やしました。幸運なことに、デンマークのコペンハーゲンを本拠地とする本物の海運会社のCEOと長い期間を一緒に過ごすことができ、オフィスでの話し方、ジャケットを脱いだり着たりする仕草を観察し、話を聞くこともできました。海運業というのは非常に閉ざされた世界で、その実情を知る機会はありません。そして海運業は莫大な額のお金が動く業界です。ですがCEOからは、さまざまな率直な話を聞くことができました。彼自身、数年前に会社所有のデンマークの船舶がソマリア沖で海賊船にシージャックされるという映画同様の体験をしていたのです。その際に彼が交渉人として電話でソマリア人の海賊と交渉したのですが、当時の状況や感情について話を聞き大変インスピレーションを得ることができました。その時の会話の内容は私たちの秘密なのでお教えできませんが、彼との交流なくしてはこの役を演じることができなかったと言えます。

Q: 船上での様子をリアルに描写するためにどのような準備をしたのかお聞かせください。

プロデューサー: シージャックのドキュメンタリーは数多く見ましたし、デンマーク船のシージャック事件について多くのリサーチを重ねました。またソーレンが話していたCEOのように、本作品を製作するにあたり非常に多くの方の協力を得ることができました。映画でオコナー役を演じている人物は、実生活で海運会社に勤めている本物の交渉人でした。彼の経験を聞いたり実際の交渉の際のやりとりが文書化されたものを見せてもらうことで、シージャックの現場で起こることを再現できたのです。

Q: 海賊へのインタビュー場面があるシージャックのドキュメンタリーを見たことがありますが、監督は海賊も取材したのですか？

プロデューサー: していません。この映画では海賊のことでなく、シージャックされたことが人の人生にどのような影響を及ぼすかを描きたかったのです。海賊にインタビューができれば面白かったとは思いますが、彼らの意見を知る必要はなかったと思います。

Q: 海賊が船に乗りこんでくる瞬間が電話通信の音だけで表現され、映像がないのは予算の都合ですか？それとも観客のイメージを膨らませようという理由でしょうか？

プロデューサー: 簡単にいうと両方です。それは冗談で、脚本の段階で海賊が乗船する場面を映像で見せることはやめようとしていました。この作品は人間の悲劇を描くヒューマンドラマで、アクション映画ではないからです。

Q: 画面に「Day120」と出ることで観客はこんなに時間がたっているのかとびっくりしますが、最後の日にも「Day～」と出ることで、まだまだ事件は終わってないのだと感じます。最後の日にもこの表示を出したことの意図はなんですか？

プロデューサー: 日にち表記は時間の経過を観客に理解してもらうのに効果的と考えたからです。また最後の日にもこの表記を入れたのは、事件には終わりが無いということを表現したかったから。シージャックは悲劇なのです。シージャックを経験した者は精神的・肉体的な傷を負い、その傷はずっと癒されることがないのです。

Q: 俳優ではない一般人をキャスティングすることについて、また一般人と演技をする際の注意点を教えてください。

ソーレン・マリンさん: 一般人との演技はうまくいくこともあるし、うまくいかないこともあります。それはプロの俳優が相手でも起こりうるのですが、この映画に関していうと、オコナー役の人物は本物の交渉人です。その仕事ぶりがあまりにも優れていたので監督のトビアスが映画に出演させようと思ったのですが、彼の演技は素晴らしかったですね。結論からいうと、この映画は一般人を使うことが大成功した例だと思います。

プロデューサー: トビアス・リンホルムと一緒に仕事をした『R』という映画では、出演者は一人を除き全員が本物の服役者でしたし、これは彼の映画作りの手法なのだと思います。私はトビアスを大変信頼しているので彼の判断に任せました。

インド洋沖でデンマークの商船がアフリカ系の海賊にジャックされる。本社は、遠く離れた海賊の心理を探りながら困難な交渉を始めるが、船員は徐々に疲弊していく…。多発する海賊事件を息の詰まるリアリズムで再現した、交渉術と人間心理を巡るサスペンスドラマ。

監督/脚本: トビアス・リンホルム

出演: ヨハン・フィリップ・アスベック、ソーレン・マリン、ダール・サリム

『シージャック』(2012/99分/デンマーク語/デンマーク)

### 【お問合せ】

東京国際映画祭事務局 コミュニケーション広報グループ 宣伝チーム TEL:03-3553-4793 FAX:03-3553-4788